



2024年6月7日  
東日本旅客鉄道株式会社  
盛岡支社

## 観光列車「ひなび(陽旅)」×釜石線沿線伝統工芸品装飾 ～第二弾～ 花巻市伝統工芸品「さき織」「花巻傘」の装飾で車内を彩ります！

2024年1月～3月にかけて、地域との連携や魅力の発信として釜石線沿線の花巻市東和町とコラボレーションし、「成島和紙」のランプシェードで「ひなび(陽旅)」の車内を彩りました。

2024年6月～7月は、その第二弾として、花巻市伝統工芸品「さき織」「花巻傘」の装飾で「ひなび(陽旅)」の車内を彩ります。この機会にぜひ、伝統工芸品「さき織」「花巻傘」で装飾した「ひなび(陽旅)」の特別な車内をお楽しみください。

### 1 実施期間

2024年6月15日(土)、16日(日)、22日(土)、23日(日)

7月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)、15日(月・祝)、27日(土)、28日(日)

### 2 運行区間

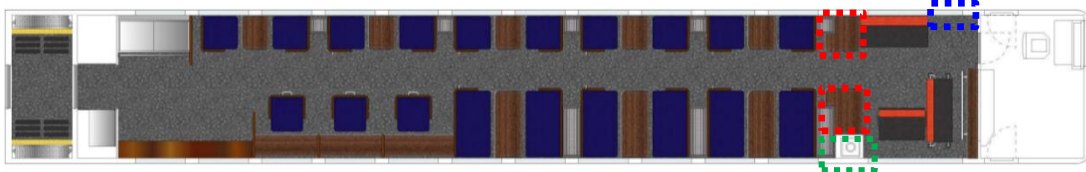
東北本線盛岡駅～花巻駅間 / 釜石線花巻駅～釜石駅間

### 3 車内設置個所

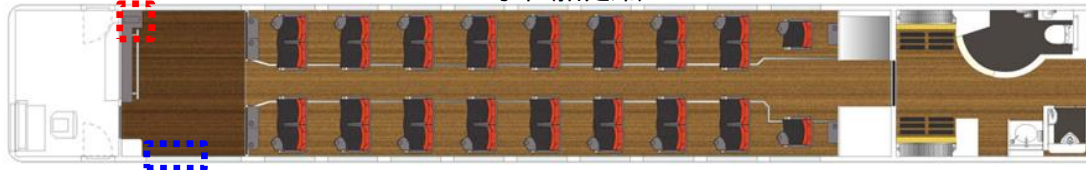
1号車(グリーン車)展望室


2号車(指定席)展望室

1号車(グリーン車)



2号車(指定席)



 : 壁掛け傘

 : さき織タペストリー

 : 花巻傘、さき織セット

※車内設置個所は変更になる場合がございます。

## 【参考】

### ■「さき織」について

- さき織は、使い古した布を細く裂いて紐状にし、緯糸（よこいと）として織り込み、新たな布に甦らせる織りの技法です。
- 南部藩時代、寒冷な東北地方では衣服の原材料である木綿の栽培が難しかったため、ものを大切に使う農村地域の女性たちの知恵から生み出されました。かつて機織り機は嫁入り道具のひとつで、さき織りは農閑期の女性たちの手仕事として収入源にもなっていました。
- 現代ではコースターやランチョンマットなどの敷物のほか、タペストリーやバッグなどの装飾品も製作され、その芸術性を高めています。

### ■「花巻傘」について

- 成島和紙と同じく花巻市無形文化財である花巻傘は、約 220 年前に肥後熊本の武士・千葉左近が花巻で傘を作ったのが始まりといわれています。明治初めから昭和 30 年代前半まで花巻の主要産業のひとつとして栄えましたが、現在は滝田工芸のみとなり、三代目・滝田信夫氏が 76 におよぶ傘作りの行程をひとりで担っています。
- 今回は、色鮮やかな京染めを施した成島和紙を使ってミニチュアや壁掛けに仕上げました。現代に受け継がれる技を是非ご覧ください。



「さき織」「花巻傘」(イメージ)



車内設置の様子 (イメージ)

※ 写真は全てイメージです。

※ この情報は 2024 年 6 月現在の情報です。